

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 平成 19 年度 F D 推進委員会小委員会の活動を振り返る
F D 推進委員会小委員会委員長
安元 稔
- 2007 年度「学生による授業アンケート」(後期)集計結果
- 今年度の F D 推進部会活動報告

仏教学部	石井 修道
文学部	高木 正博
経済学部	山縣 弘志
法学部	金子 昇平
経営学部	滝田 公一
医療健康科学部	青木 清
グローバル・メディア・スタディー ズ学部	斎藤 信男
総合教育研究部	清水 善和
- F D 推進委員会の今後の活動予定

平成 19 年度 F D 推進委員会小委員会の活動を振り返る

**F D 推進委員会小委員会委員長
経済学部教授 安元 稔**

昨年 4 月に小委員会委員長に就任し、図らずも現在の大学教育がかかえる難問に直面することになった。1 年弱の経験を通じて感じたことを以下に記すことにしたい。

まず、懸案の「学生による授業アンケート」の結果公表・フィードバックの仕方については、小委員会内部でもまだ意見の一致を見ていない。授業アンケートの結果には必ずと言っていいほど登場する学生の教育環境、特に教場・図書館の改善といった年来の要望に大学はどの程度応えているのか、無記名式授業アンケートが果たして学生の建設的な意見の吸収にどれほど役に立つのか、インターネット上の掲示板への書き込みと同じ感覚で授業アンケートに答えていることはないか等、基本的な問題について引き続き検討しなければならない。

大学の物理的な教育環境については、他大学と比べると、見劣りする点が少なくない。例えば、本学においては、525 名を収容する最大規模の教場は 2 つしかないにもかかわらず、例えば、2007 年度の経済学部においては、500 名以上の履修者をかかえる講義数は 9 を数える。他学部履修科目を含めれば、その数は 12 に上っている。各教室棟のそれぞれの階に、学生の自習室・談話室・コンピュータ使用室を設置している大学も少なくない。レポート・ゼミ論の作成、通常の文献閲覧のために、図書館に副本を備える大学も珍しくない。学生の教育に対する満足度の向上、効果的な教育の実施という点からもこうした課題に優先的に取り組むべきであろう。個々の教員の教育方法の改善はもとより、こうした物理的な教育環境の整備は必須の課題である。

最後に、昨年、数回にわたって総合情報センターと共催で実施してきた e-learning (YeStudy) の講習会は、この授業方法に幾つかの課題はあるものの、総じて意義深いものであった。多数の受講者をかかえる社会科学系の学部においては、この方法は特に効果を発揮する教育方法のひとつであるように思われる。今後、多くの教員の方々に採用していただくよう努める積りである。

2007年度「学生による授業アンケート」(後期) 集計結果

2007年度「学生による授業アンケート」(後期)を以下のとおり実施した。また、その結果については、科目分野ごとに、質問項目に基づき学部・学科の平均値を示した。

実施日	平成19年11月7日～11月13日
対象科目	1,058科目
対象者数	104,413人
実施科目数	1,048科目(99.1%)
回答数	47,504枚(45.9%)

【質問項目】

今年度の後期授業アンケートから、担当教員が任意に質問内容を決められる項目を新たに設けた。

講義科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。
- Q 7 . 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 8 . 教材・資料等は効果的に使われていましたか。
- Q 9 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 10 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 11 . 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q 12 . 板書やスライド等の資料提示は見やすかったですか。
- Q 13 . この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q 14 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。

- Q 15 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 16 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 17 . 担当教員による個別質問。
- Q 18 . 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q 19 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 20 . この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

実験・実習科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。
- Q 7 . 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 8 . 教材・資料等の利用は実験や実習の理解に役立ちましたか。
- Q 9 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 10 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 11 . 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q 12 . 実験機材の使用等についての説明は、わかりやすかったですか。
- Q 13 . この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q 14 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 15 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 16 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 17 . 担当教員による個別質問。
- Q 18 . 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q 19 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 20 . この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

語学科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1 週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。
- Q 7 . 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 8 . 補助教材の視聴覚資料（カセット、ビデオ等）を効果的に取り入れていましたか。
- Q 9 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 10 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 11 . 発音・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q 12 . この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q 13 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 14 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 15 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 16 . 担当教員による個別質問。
- Q 17 . 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q 18 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 19 . この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

**保健体育実技科目**

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業時間中は実技に集中し、熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1 週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 8 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 9 . 器具・用具について適切な説明がなされましたか。
- Q 10 . この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q 11 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 12 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 13 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 14 . 担当教員による個別質問。
- Q 15 . 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q 16 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 17 . この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

個別項目についての学科・専攻別平均値

表 1 - 1 ~ 表 4 - 2 は、5 段階で評価された各項目について、項目別平均値を示したものである。

なお、有効回答のあった学部・学科のみ掲載した。

表 1 - 1 講義科目

学部 学科 専攻	仏 教学部) 禅	仏 教学部) 仏教	文学部) 国文	文学部) 英米文	文学部) 地域文化	文学部) 地域環境	文学部) 歴史	文学部) 日本史学	文学部) 外国史学	文学部) 考古学	文学部) 社会学	文学部) 社会福祉学	文学部) 心理
Q01	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.1	2.9	3.1
Q02	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.2	3.3	3.3
Q03	1.5	1.5	1.3	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2	1.3	1.2
Q04	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.2	3.2	3.2
Q05	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5
Q06	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2
Q07	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5
Q08	3.6	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.8	3.6
Q09	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9
Q10	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.5	3.3	3.5	3.4
Q11	3.6	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6
Q12	3.2	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.2
Q13	3.4	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3
Q14	3.5	3.5	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5	3.5
Q15	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	3.7	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0
Q16	4.0	4.0	4.1	4.2	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0
Q17	3.5	3.5	3.4	3.7	3.4	3.3	3.4	3.5	3.4	3.0	3.7	4.0	3.6
Q18	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.9	3.8
Q19	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7	3.6	3.7	3.8	3.7
Q20	3.6	3.5	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3	3.4	3.5	3.5
有効回 答数	793	1,417	2,332	1,593	1,026	1,063	797	1,248	935	570	1,195	1,121	1,477

表 1 - 2 講義科目

学部・学科・専攻	(経済学部)経済 A	(経済学部)経済 B	(経済学部)商	(経済学部)現代応用経済	(法学部)法律 A	(法学部)法律 B	(法学部)政治	(経営学部)経営 A	(経営学部)経営 B	医療健康科学部)診療放射線 技術科	(GMS学部)GM	(短期大学)短大仏教
Q01	3.3	3.3	3.3	3.1	3.2	3.1	3.3	3.2	3.3	2.6	3.0	3.0
Q02	3.4	3.5	3.4	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.6	3.3	3.4	3.0
Q03	1.4	1.5	1.4	1.5	1.5	1.6	1.5	1.5	1.5	1.6	1.5	2.0
Q04	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.3	3.2	3.3	3.3	3.4	3.3	3.0
Q05	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.8	3.4	4.0
Q06	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.1	3.3	4.0
Q07	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.7	3.3	3.5	4.0
Q08	3.6	3.7	3.6	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.7	3.5	3.7	4.0
Q09	3.9	4.0	3.9	3.7	3.9	3.8	3.8	3.7	4.0	3.7	3.8	5.0
Q10	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.6	3.3	3.5	5.0
Q11	3.5	3.7	3.6	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.7	3.4	3.5	5.0
Q12	3.2	3.4	3.3	3.3	3.1	3.1	3.1	3.2	3.4	3.2	3.4	4.0
Q13	3.3	3.5	3.4	3.3	3.4	3.3	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4	5.0
Q14	3.4	3.6	3.5	3.4	3.5	3.4	3.5	3.4	3.6	3.3	3.5	5.0
Q15	3.9	4.0	4.0	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	4.0
Q16	4.0	4.2	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	3.8	4.0
Q17	3.2	3.6	3.3	3.2	3.6	3.5	3.5	3.3	3.5	3.3	3.3	-
Q18	3.7	3.7	3.7	3.9	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.4	3.6	1.0
Q19	3.7	3.8	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8	3.5	3.5	5.0
Q20	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	3.4	3.3	3.0
有効回答数	4,069	963	2,311	461	3,548	1,475	2,479	3,937	1,163	1,202	1,933	1

2 - 1 実験・実習科目

学部・学科・専攻	仏教学部) 禅	仏教学部) 仏教	文学部) 国文	文学部) 英米文	文学部) 地域文化	文学部) 地域環境	文学部) 歴史	文学部) 日本史学	文学部) 外国史学	文学部) 考古学	文学部) 社会学	文学部) 社会福祉学	文学部) 心理
Q01	3.1	3.2	3.4	4.8	2.9	3.8	3.6	4.0	3.6	4.0	2.8	2.7	2.8
Q02	3.6	3.5	4.0	4.5	3.7	3.8	4.0	3.8	3.8	3.9	3.7	3.7	3.8
Q03	1.3	1.3	1.1	1.5	2.0	1.9	2.4	1.3	2.2	1.3	1.8	1.2	1.9
Q04	3.1	3.0	3.1	3.0	3.2	3.2	3.5	3.2	3.1	3.1	3.5	3.3	3.8
Q05	3.3	3.1	3.5	3.8	3.7	3.5	4.0	3.4	3.5	3.3	4.0	3.5	4.1
Q06	3.5	3.5	3.5	4.0	3.1	3.3	3.7	3.8	3.7	3.6	3.2	3.3	3.3
Q07	3.8	3.9	3.8	4.3	3.6	4.0	4.2	3.8	3.9	3.8	3.3	3.6	3.6
Q08	3.7	3.7	3.8	4.3	3.6	4.1	4.1	3.8	4.0	3.8	4.0	4.0	3.9
Q09	4.1	4.2	3.6	4.3	3.7	3.7	4.7	4.1	4.4	4.0	4.0	4.1	4.1
Q10	3.8	3.7	3.5	3.8	3.2	3.2	3.8	3.7	4.0	3.4	3.6	3.8	3.5
Q11	4.0	4.0	3.5	4.0	3.6	3.5	4.5	3.8	4.1	3.8	3.6	3.8	3.9
Q12	3.4	3.5	3.3	3.8	3.2	3.4	3.5	3.6	3.6	3.2	3.4	3.7	3.4
Q13	3.3	3.3	3.2	3.5	3.2	3.3	3.6	3.6	3.8	3.4	3.3	3.7	3.2
Q14	3.6	3.6	3.5	4.3	3.4	3.8	4.2	4.0	3.9	3.8	3.6	3.8	3.5
Q15	4.4	4.2	3.5	4.0	4.0	3.5	4.3	4.2	4.5	3.9	4.0	4.1	4.2
Q16	4.4	4.5	3.4	4.3	4.1	4.2	4.3	4.3	4.4	4.1	3.5	4.0	4.0
Q17	3.7	3.2	3.5	4.0	5.0	4.1	5.0	3.5	3.3	2.5	3.0	4.2	3.0
Q18	4.3	4.5	3.9	4.0	4.0	3.3	4.5	4.0	4.2	3.9	4.0	3.8	4.1
Q19	4.2	4.3	4.1	4.5	4.1	3.4	3.9	4.0	3.9	3.6	4.0	3.8	4.2
Q20	2.9	3.3	3.8	3.8	3.7	2.9	3.5	3.4	3.8	3.3	3.8	3.6	3.8
有効回答数	76	111	22	4	61	12	13	20	16	29	46	115	105

表 2 - 2 実験・実習科目

学部 学科 専攻	(経済学部)経済 A	(経済学部)商	(経済学部)現代応用経済	(法学部)法律 A	(法学部)政治	(経営学部)経営 A	(経営学部)経営 B	医療健康科学部)診療放射線 技術科	(GMS学部)GM
Q01	3.3	2.9	4.0	3.3	3.7	3.3	3.0	2.9	3.0
Q02	3.6	3.7	3.0	3.8	4.0	4.3	3.6	3.6	3.4
Q03	2.6	1.4	2.0	1.5	1.0	1.5	1.3	3.1	1.3
Q04	4.0	4.0	4.0	3.6	3.7	3.8	3.1	3.3	3.6
Q05	4.1	3.5	4.0	3.7	3.0	3.5	3.1	4.1	4.1
Q06	3.2	3.2	3.0	3.0	3.0	3.8	3.3	3.2	3.2
Q07	3.8	3.5	3.0	3.2	3.7	4.0	3.5	3.6	3.5
Q08	3.9	3.8	3.0	3.6	3.3	4.1	3.5	3.8	3.8
Q09	4.0	3.8	4.0	3.8	3.7	4.5	3.4	3.9	4.2
Q10	3.8	3.3	3.0	3.4	3.3	4.5	3.2	3.5	3.5
Q11	3.9	3.5	4.0	3.3	3.0	4.4	3.3	3.6	3.7
Q12	3.7	3.4	3.0	3.5	2.7	4.4	3.3	3.4	3.3
Q13	3.6	3.4	3.0	3.7	3.7	4.3	3.1	3.4	3.2
Q14	3.4	3.5	3.0	3.8	3.7	4.3	3.2	3.6	3.3
Q15	4.2	3.9	5.0	4.0	4.0	4.4	4.0	3.2	4.0
Q16	4.4	4.2	3.0	4.3	4.3	4.1	3.8	4.0	3.7
Q17	2.7	2.9	-	3.6	3.3	5.0	4.0	3.5	3.7
Q18	4.3	4.1	4.0	4.1	4.0	4.5	4.0	3.5	3.8
Q19	4.0	3.8	2.0	4.2	4.3	4.6	4.1	3.6	3.6
Q20	3.8	3.7	2.0	3.8	4.3	4.5	3.8	3.5	3.8
有効回答数	9	226	1	12	3	8	11	60	69

表 3 - 1 語学科目

学部 学科 専攻	仏教学部 禅	仏教学部 仏教	文学部 国文	文学部 英米文	文学部 地域文化	文学部 地域環境	文学部 歴史	文学部 日本史学	文学部 外国史学	文学部 考古学	文学部 社会学	文学部 社会福祉学	文学部 心理
Q01	2.9	3.0	3.1	3.2	2.9	2.8	3.1	3.1	3.1	2.9	2.7	3.0	2.6
Q02	3.4	3.3	3.5	3.6	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	3.5	3.6
Q03	1.6	1.6	1.6	1.5	1.7	1.5	1.8	1.8	1.5	1.8	1.4	1.5	1.5
Q04	3.3	3.3	3.1	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	3.3	3.2	3.4	3.1
Q05	3.6	3.6	3.3	3.3	3.5	3.4	3.4	3.6	3.3	3.2	3.5	3.6	3.2
Q06	3.1	3.1	3.3	3.4	3.2	3.3	3.5	3.3	3.4	3.3	3.2	3.4	3.3
Q07	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5	3.7	3.5	3.6	3.4	3.5	3.6	3.6
Q08	3.4	3.1	3.4	3.4	3.2	3.5	3.3	3.2	3.1	3.3	3.2	3.6	3.6
Q09	3.9	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7	4.0	3.9	3.8	3.7	3.8	4.0	3.9
Q10	3.3	3.1	3.4	3.4	3.3	3.3	3.7	3.4	3.6	3.4	3.4	3.6	3.6
Q11	3.2	3.2	3.3	3.5	3.2	3.3	3.7	3.6	3.6	3.3	3.4	3.6	3.6
Q12	3.2	3.0	3.3	3.4	3.2	3.3	3.6	3.5	3.5	3.4	3.3	3.5	3.4
Q13	3.3	3.2	3.5	3.5	3.4	3.4	3.7	3.6	3.7	3.6	3.5	3.7	3.6
Q14	3.9	3.7	3.8	3.9	3.6	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	4.1	3.9
Q15	4.0	4.0	4.2	4.1	3.9	4.1	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2
Q16	3.4	3.6	3.1	3.5	3.2	3.1	4.2	4.1	3.8	3.7	3.5	3.2	3.4
Q17	4.0	3.9	3.8	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.1	3.9	4.0	4.0
Q18	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	4.0
Q19	3.6	3.5	3.4	3.6	3.6	3.4	3.6	3.3	3.4	3.4	3.5	3.6	3.7
有効回答数	123	293	349	722	212	192	111	205	222	139	198	120	328

表 3 - 2 語学科目

学部 学科 専攻	(経済学部)経済 A	(経済学部)経済 B	(経済学部)商	(経済学部)現代応用経済	(法学部)法律 A	(法学部)法律 B	(法学部)政治	(経営学部)経営 A	(経営学部)経営 B	(医療健康科学部)診療放射線 技術科	(GMS学部)GM	(短期大学)短大国文
Q01	3.0	2.9	3.0	3.1	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	2.5	3.1	1.0
Q02	3.4	3.5	3.6	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.2	3.6	4.0
Q03	1.6	1.5	1.7	1.9	1.7	1.8	1.6	1.6	1.7	1.7	1.8	2.0
Q04	3.3	3.1	3.2	3.6	3.1	3.0	3.3	3.1	3.0	3.1	3.3	3.0
Q05	3.4	3.1	3.3	3.9	3.3	3.1	3.4	3.3	3.0	3.0	3.7	3.0
Q06	3.3	3.4	3.4	3.1	3.3	3.4	3.4	3.3	3.4	2.9	3.3	3.0
Q07	3.5	3.7	3.6	3.2	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.1	3.6	3.0
Q08	3.4	3.3	3.6	3.4	3.3	3.5	3.3	3.4	3.2	3.4	3.5	4.0
Q09	3.8	4.0	4.0	3.7	4.0	4.0	4.0	3.8	3.9	3.3	4.0	5.0
Q10	3.4	3.8	3.5	2.9	3.5	3.6	3.6	3.4	3.7	2.9	3.4	5.0
Q11	3.3	3.7	3.5	3.0	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.0	3.4	5.0
Q12	3.3	3.5	3.4	2.7	3.4	3.5	3.4	3.3	3.5	2.9	3.3	5.0
Q13	3.4	3.7	3.5	2.8	3.6	3.7	3.6	3.5	3.6	2.9	3.5	5.0
Q14	3.9	4.0	4.0	3.7	4.0	3.7	4.0	3.8	3.8	3.5	4.2	4.0
Q15	4.1	4.1	4.1	4.0	4.3	4.3	4.2	4.0	3.9	3.4	4.3	5.0
Q16	3.0	3.4	3.5	3.4	3.9	3.5	3.5	3.5	3.7	3.2	3.6	-
Q17	3.8	3.6	4.1	4.1	4.0	3.9	4.0	3.8	3.9	3.5	4.2	5.0
Q18	3.7	3.7	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.6	4.1	5.0
Q19	3.4	3.3	3.6	3.6	3.5	3.4	3.6	3.5	3.6	3.2	3.6	5.0
有効回答数	439	74	442	49	607	172	339	749	166	65	158	1

表 4 1 保健体育実技科目

学部 学科 専攻	(<u>仏</u> 教学部) (<u>仏</u> 教)	(<u>文</u> 学部) (<u>国</u> 文)	(<u>文</u> 学部) (<u>地</u> 域文化)	(<u>文</u> 学部) (<u>歴</u> 史)	(<u>文</u> 学部) (<u>日</u> 本史学)	(<u>文</u> 学部) (<u>外</u> 国史学)	(<u>文</u> 学部) (<u>考</u> 古学)	(<u>文</u> 学部) (<u>社</u> 会学)	(<u>文</u> 学部) (<u>社</u> 会福祉学)	(<u>文</u> 学部) (<u>心</u> 理)
Q01	2.5	3.0	3.5	2.5	3.7	3.0	2.8	2.9	2.8	2.4
Q02	4.0	4.1	4.0	3.5	4.5	4.3	4.5	3.9	3.8	4.6
Q03	2.8	1.4	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1
Q04	3.0	2.8	2.5	4.3	3.2	3.7	4.0	2.9	3.0	3.7
Q05	3.5	2.9	2.5	4.3	3.0	3.5	3.8	2.7	3.5	3.6
Q06	3.3	3.5	3.5	3.5	3.8	3.3	3.0	3.5	3.8	3.5
Q07	4.5	4.1	3.5	4.5	4.7	4.3	4.8	4.2	4.2	4.6
Q08	3.8	3.9	3.5	4.5	4.2	3.8	4.3	4.1	4.1	3.7
Q09	3.5	3.7	4.0	4.3	4.0	3.5	3.5	4.2	4.3	3.7
Q10	4.0	3.9	4.0	3.8	4.2	3.8	4.5	3.9	4.0	3.6
Q11	3.8	3.8	4.0	3.8	4.3	3.7	4.5	3.7	4.0	3.6
Q12	4.3	3.7	4.0	4.8	4.3	4.2	4.0	4.5	4.2	4.5
Q13	4.0	3.8	4.0	4.3	3.0	3.2	3.3	3.8	3.9	3.6
Q14	4.0	3.6	4.0	4.3	4.5	4.0	4.8	3.5	4.5	4.4
Q15	4.0	3.9	4.0	4.8	4.5	3.8	4.0	4.2	4.1	4.4
Q16	4.0	4.0	4.0	4.8	4.8	4.3	4.3	4.2	4.0	4.4
Q17	4.0	3.0	4.0	3.5	3.7	3.0	3.3	3.5	3.4	3.6
有効回答数	4	20	2	4	6	6	4	13	13	16

表 4 2 保健体育実技科目

学部 学科 専攻	(経済学部)経済 A	(経済学部)商	(法学部)法律 A	(法学部)政治	(経営学部)経営 A	(GMS学部)GM
Q01	5.0	3.5	2.7	3.5	3.7	2.3
Q02	5.0	4.5	3.3	4.0	4.3	3.9
Q03	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3
Q04	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7	3.1
Q05	1.0	2.0	3.0	2.5	2.3	3.0
Q06	5.0	4.0	3.0	4.5	3.7	3.5
Q07	5.0	4.5	4.3	4.5	4.3	3.8
Q08	5.0	4.5	4.0	4.0	3.3	3.4
Q09	4.0	4.5	4.0	4.5	3.3	3.7
Q10	5.0	4.0	4.0	4.5	4.0	3.1
Q11	5.0	4.0	4.3	4.5	3.7	3.3
Q12	5.0	4.5	4.0	4.5	4.3	3.8
Q13	5.0	4.0	4.0	4.0	4.3	4.1
Q14	-	-	1.0	5.0	-	4.2
Q15	5.0	5.0	4.3	4.5	4.3	4.0
Q16	5.0	5.0	4.3	4.5	4.3	3.9
Q17	5.0	5.0	4.3	3.5	3.7	3.4
有効回答数	1	2	3	2	3	26

今年度の F D 推進部会活動報告

「FD NEWSLETTER 第 11 号」において、各学部等の F D 推進部会で検討された F D の取り組みについてご寄稿いただきました。

今号では、F D 推進部会の部会長である各学部長等に今年度におけるその取り組みの成果をご報告いただきました。

「20 年度からの新カリキュラムの目的は達成するか」

仏教学部長 石井 修道

「FD NEWSLETTER 第 11 号」に触れたように、仏教学部では学部内に平成 16 年度より教育研究組織等検討委員会を設置して、新カリキュラム案を検討してきた。教授会で案も了承され、いよいよ平成 20 年度から、担当者も決定し、新カリキュラムはスタートすることになった。「駒澤大学 F D 推進委員会規程」の「F D の定義」にいう「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるために行う、各学部等の組織的な取り組み」に当たり、「授業内容の改善」を行ったのである。その改善の基本は 1 年次の導入教育の充実にある。以下にその特色を 2 点に絞って述べてみる。

1、高等学校までの教育内容から考えて、仏教を学ぶ為に必要な「仏教漢文入門」を新設し、少人数制による 5 コマを開講することとした。

2、仏教の基礎知識をしっかりと身につける為に「仏教語・禅語解説」「仏教・禅教団論」「仏典・禅籍解説」の 3 科目を新設した。それぞれの担当も前期・後期を仏教学科・禅学科の専任教員で行い、リレー科目とした。

1 年次で、その他の仏教学入門、中国禅宗史・仏教史<印度仏教史・中国仏教史・日本仏教史>、宗教教育科目(仏教と人間)などで専任教員から学べるので、入学と同時に学部の専任教員と接する機会は数段多くなった。このことによりきめ細かい全人教育が期待できる。

さて、この改善が果たして学生にどのように評価されるか、よい結果を期待するところである。

「今年度の F D の取り組みについて」

文学部長 高木 正博

「FD NEWSLETTER 第 11 号」で、教員自身がお互いの授業内容や進め方に関心を持つことが重要であることを述べた。この認識は各教員が共有していることだと思うが、実際にいざ自分の授業を公開するとなるとためらいがあるのか、なかなか前進できない。今年度は公開授業が複数実施されることを願ったが、結果的には 1 回にとどまった。しかし、この授業では、学生にわかりやすい説明を心がけた多くの工夫がなされていた。とくに毎回の授業にて独自の出席カードを配り、学生に授業評価と感想・意見・質問等を書いてもらい、次回

の授業でそれらの質問等に対する回答をプリントして説明していた。これにより、学生は身近な問題として注目することになり、学習意欲が増加しているようで効果的であった。私自身、授業スキル向上には多くの工夫が必要であることを実感させられた。このようにさまざまな授業内容や方法を参考にしながら授業を改善してゆくことが F D の一つであると考えている。また、公開授業に関して文学部では、実施期間が 11 月から 12 月にかけて行われると卒業論文の指導時期と重なり負担が多くなること、少人数のゼミ形式による演習・実習の授業が多いので、講義形式ばかりでなく形態に幅を持たせた公開授業を実施したいなどの意見があった。

学生による授業アンケートでは、5 段階評価の数字以上に自由記述欄の記載事項が役立つ。私にとっては IT の活用や、視聴覚教材の利用に関する具体的な指摘が参考になった。当面は現在行われている公開授業と学生による授業アンケートをとおして授業内容・方法の改善を考えることが重要であると認識している。

「F D の推進とその乗り越えと」

経済学部長 山縣 弘志

「質の高い大学教育推進プログラム」に対して経済学部は積極的に取り組む姿勢である。経済学部は従来から学生の多様なニーズに対応し、伝統的な専門教育の充実だけでなく、生きた社会の声に学生の関心を向けるべく、専門科目として「現代経済事情」を置き、大学外の専門家、企業人等の講義を提供してきた。これには学生へのアンケートを介してテーマを数年ごとに変更し、時代の変化への対応を図ってきた。同様に、商学科、現代応用経済学科にビジネス・インターシップ（経済学科生もその一部を享受可能、その拡充を検討中）、商学科の専門家養成コースとして会計プロフェッショナルコースを設置し、来年度からは現代応用経済学科にビジネス事例研究・トップマネジメント講座を開設する。これらは、学問的基礎と実践的応用とを切り離すことなく融合させようとする試みである。今後は、これら個別の試みをシステムとして見直し、次の段階へと展開していくことが課題であると考えている。

他方で、そうした専門教育の意義を学生が受け止めてくれるためには、導入教育の充実が必要であり、その点では経済学概説（経済学科）、基礎ゼミ（商学科、現代応用経済学科）

の設置によって対応してきた。ただ、課題の大きさに照らせば、専門学部の努力だけでは限界があるのは明白である。今後入学生のいっそうの学力低下が予想される中で、彼らの大学教育への準備不足に対して全学的な体制を構築して対応する必要がある。「F D」の呼称が問題の学部単位での解決へと我々の意識を狭めるとしたら、その先入観を取り除かなければならない。F D が学部の枠にとどまっては本来 F D のめざす課題自体を解決できないであろう。各学部の F D の成果は各学部が相互に吸収してしかるべきであり、課題が全学的である場合には全学的に取り組まなければならない。他大学では様々な導入教育の試みが行われ、既に多くの経験が蓄積されている。それらを吸収して、各学部等の連携のもとに、本学の学生の求める導入教育を提供していく必要がある。本学にはそのための教育資源は存在する。ただ明らかなことは全学的な導入教育体制が存在しないことである。

「授業運営と教育責任」

法学部長 金子 昇平

昨年（平成 19 年）大学設置基準の改正が行われ、大学は F D の一環として、学生に対して授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする（大学設置基準 25 条の 2 第 1 項）という規定が新たに盛り込まれた。同規定により、講義内容の詳細について、より詳しいものが学生に示されることとなった。

ところで現在の単位制度は、当該授業による教育効果、「授業時間外に必要な学修等を考慮して」単位数を計算することとされている（大学設置基準 21 条 2 項）。すなわち教場における授業と、事前の予習と事後の復習とを伴わせた制度によっている点を認識すべきであると思われる。従来の F D は、「授業」の内容及び方法の改善を図る点に力点が置かれていた。学生の自主的学習が求められているわけであるから、予習をしていくことと、復習の履行がなされているかどうかを、教員は見きわめる必要がある。授業において、予習をしましたが、復習をしましたかという質問に対して学生が、手を挙げる数がきわめて少数なことを、ここで指摘しておきたい。

つぎにカリキュラムが適正かどうかについての点検は、常に実施されなければならない。法学部においても、セメスター制の導入の是非等、今後の課題として検討したい。

現在、実施されている公開授業は、通常の授業を教員に公

開する形式で行われているが、これが担当教員の授業の方法等に反映できるようさらに推進したい。

「FDの反省」

経営学部長 滝田 公一

毎年、年度初めに、本学部では、成績不振の学生の面談を行っているが、1年次生の時点で、大学での学習生活に馴染めない学生が成績不振に陥る可能性が高いことがわかってきた。そこで、本学部では、1年次生を対象として、学生の抱える就学上の問題に対して相談に応じるよう、学生を各教員に機械的に割り振り、学生相談の体制を確立することにした。本年4月より導入する予定である。

また、学生の授業の理解を助けるために、次の2点の新しい試みを考えている。ひとつは、各教員に1週間に1回のオフィス・アワーを義務付け、学生の各々の講義に対する、疑問点、不明な点などについて対応することになった。また、本学の教育支援システム（Yestudy）を活用し、講義の理解度を深めるために、講義原稿のuploadや小テストなどを、インターネットを通じて行うことを検討している。また、オフィス・アワーを利用できない学生に対しては、インターネット上でも、学生の質問に応じることが出来るようになった。

本年度は、新学科「市場戦略学科」が立ち上がり、新任の教員を5名ほど迎えることになり、本年3月ごろに、歓迎会の意味も含めて新人研修会を行うことを予定している。また、残念ながら、現状では十分とは言えないことも多く、教員相互の授業参観、教員相互の授業評価、授業検討会の開催、教育方法改善のためのセンターの設置、講演会の開催など、残された課題は多い。

「医療健康科学部FD推進部会2007年度活動報告」

医療健康科学部長 青木 清

医療健康科学部FD推進部会では以下の3項目を平成19年度の活動目標とした。この1年を振り返り、項目ごとにFD活動の評価をしたい。

1. 学部内教員のFD推進意識の向上

教員個々人の意識改革のため、FD推進部会の委員が中心となり、教育分野ごとに少人数の研究会を開催した。これにより問題意識は高まったが、全体的には話題提供に留まった

のは否めない。学部全体としては知識の共有を重要視し、2度の教育講演会を行った。外部の有識者による分かりやすい講演であり、教え方が大変参考になった。

2. アカデミックハラスメントに関する理解の向上

各種ハラスメントに関する思想は時代とともに変化してきており、その考え方を理解することが大切である。そのため啓蒙活動用のDVDを購入し、勉強会を開催した。熱心な教育指導と優秀な研究のみではFD活動は成り立たない。ハラスメントの受け手側の辛さを感じるとともに、ハラスメントは人権侵害につながるなどが再認識された。

3. 学部1年次生の勉学意欲の維持・向上

新入生には学力差が顕著に見られ、学力的についていけない学生は途中で意欲をなくし、退学してしまう。そのため、学年担任が中心となって勉学意欲を高めるための指導方法を検討すると共に、教員間で個々の学生について情報交換を行った。ただし、学生への対応にばらつきが見られ、組織として具体的な取り組みは不十分であった。

以上のように3つの目標に沿った活動を行い、成果が得られたが課題も残った。来年度はこれらの経験を基にして、さらにFD活動を推進していきたい。

「グローバル・メディア・スタディーズ学部

FD推進部会2007年度活動報告」

グローバル・メディア・スタディーズ学部長

齋藤 信男

1. ウェブを利用した授業アンケート

ウェブを利用して授業アンケートを実施するシステムを開発した。このシステムは、学生がパソコンでも携帯電話でも入力でき、しかも匿名性が確保できることが特徴である。

これを用いて、複数の教員が分担して実施する必須科目（英語および情報リテラシー）に対して授業アンケートを実施した。その結果、授業の最終回に近くなって実施する場合に特に効率的であること、学生の回答率は紙を用いた場合と同レベルに維持できること、同じ教材を用いた同一科目でも担当教員によってアンケート結果にかなりの差が生じることなどが明らかになった。

2008年度は、全学の授業アンケート実施対象科目の拡大との関係を考慮したうえで、基本的には同じ方法で実施することを予定している。

2. シラバスと授業内容を統合した電子化コンテンツの提供
GMS 学部の教員が担当する科目の大半について、ウェブ上でシラバスおよび授業内容を電子化して GMS 学部専用の授業支援システム (moodle を利用) を通して学生に提供し、学生の利用状況を調査した。その結果、学生の利用が拡大してきたことが確認できたので、2008 年度も継続して実施する予定である。

3. 公開授業の電子的記録のウェブ上での提供

公開授業の内容を電子的に記録してウェブ上に掲載し、学内の教職員に提供するシステムを検討したが、コストに見合う効用を得る見通しが明らかでなかったため実施を見送った。2008 年度も継続して検討する予定である。

「今年度の F D 活動」

総合教育研究部長 清水 善和

「FD NEWSLETTER 第 11 号」で、英語の faculty には「個人の持てる資質・能力」と「教授団」の二つの意味があるとして、F D 活動を広く解釈すれば、「授業をよくするための個々の教員の資質開発」と「教授団としての教育能力の向上」の両方が含まれると述べた。今年度はこれらの観点から F D 活動に取り組んだ。

まず、部の F D 推進部会が中心になって 3 部門 4 人の先生方において 4 科目 (数学、中国語 I B , スペイン語 I A , 健康・スポーツ実習) の公開授業を行った。参加人数は決して多かったとはいえないが、参加者にはアンケート用紙に記入・提出をお願いしたほか、授業終了後に意見交換会を設けて、有意義な意見のやりとりがなされた。総合教育研究部は 7 部門 79 名の教員から構成されているが、設立 2 年目でまだ教員相互の理解が進んでいない状態である。公開授業のような機会を利用して「教授団」内の理解・親睦を深めていくことも重要であると思われる。

次に、各部門の委員の先生方において、各部門が今年度開講している科目をすべてリストアップしていただき、総合教育研究部が担当している科目群の全体が見渡せる資料を作成した。これを構成員全員に配布して全員の共通認識とした。また、各部門の教育内容をパワーポイントのスライド 1 枚で表現していただくようお願いした。できあがった 7 枚のスライドを並べてみると、改めて総合教育研究部がカバーする分野の広さを実感した。本当はこれらのスライドを「駒

澤 VOICE」等に活用したかったが、時期的なこともあり今回はできなかった。次年度はぜひ実現したい。

F D 推進委員会の今後の活動予定

平成 19 年度第 7 回 F D 推進委員会小委員会開催

平成 20 年 3 月 26 日 (水)

F D 活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

編集後記

「FD NEWSLETTER 第 14 号」をお届けいたします。入試関連の公務繁忙な時期にも関わらず、締切を守ってご寄稿いただきました先生方には、心より感謝申し上げます。

開始から 4 年を経過した授業アンケートですが、来年度は全科目 (受講者 20 名以下の講義・演習科目を除く) 実施となります。なお、何らかの形で結果の公表が望まれていながら、その方法や範囲について結論に至っていません。

この件に関する教員へのアンケートが先月初めて実施されました。先生方のご協力、本当にありがとうございます。次回の委員会で回答結果を精査し、今後のより充実した授業アンケート実施に反映させる方針です。

(上野勝広、塩入みほも)

【タイトル横の写真は、4 号館パソコン教場】

F D NEWSLETTER Mar. 2008 第 14 号

発行日：2008 年 3 月 15 日

発行者：駒澤大学 F D 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

03-3418-9125 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)